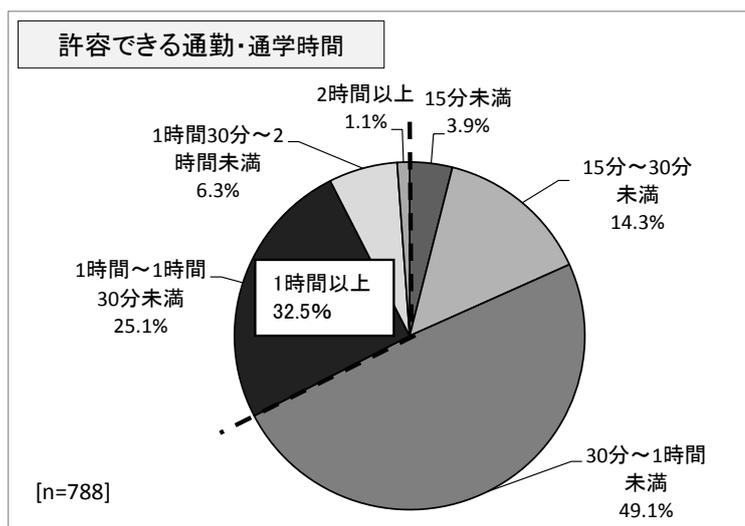


(3) 許容できる通勤・通学時間

許容できる通勤・通学時間は、「30分～1時間未満」が49.1%と最も高く、以下「1時間～1時間30分未満」(25.1%)、「15分～30分未満」(14.3%)などとなっている。1時間以上は合計で3割強と、現在の通勤・通学時間(同26.8%)に比べて高くなっており、許容時間が広がっている。

図表 5



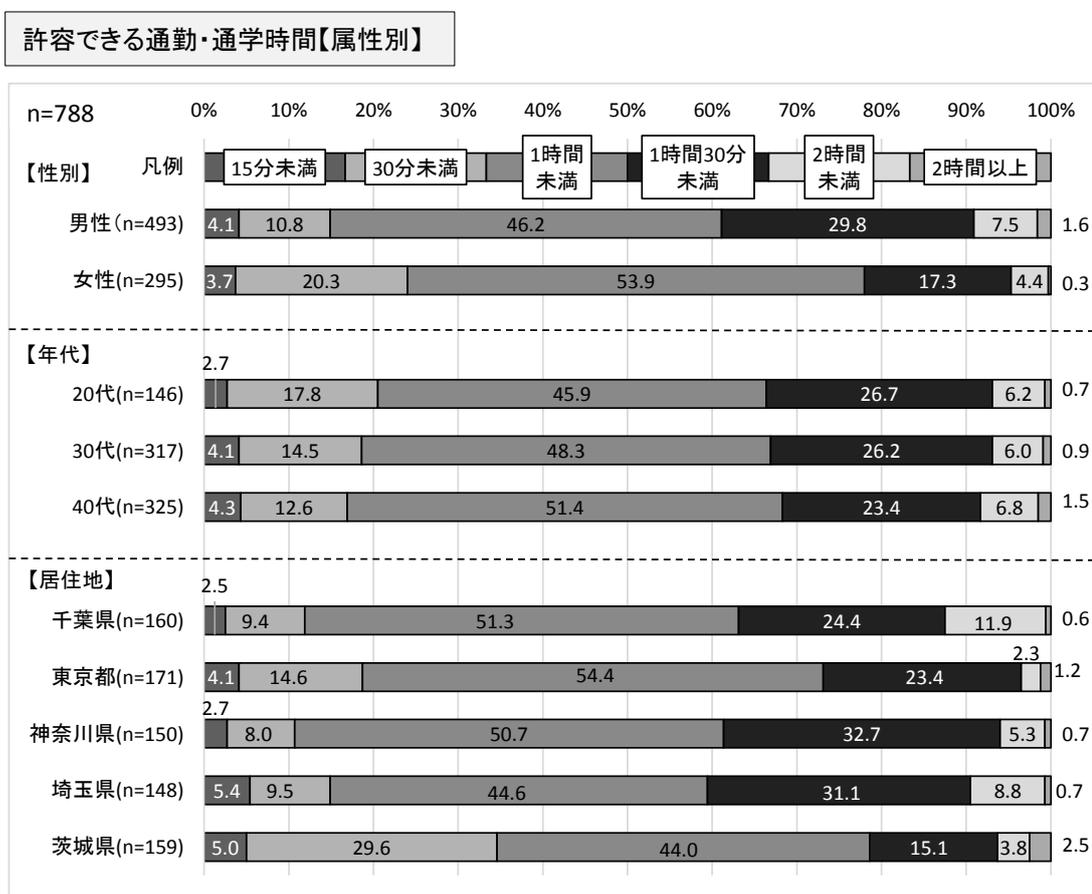
《属性別》

性別で見ると、男女ともに「1時間未満」の比率が最も高くなっている。なかでも女性（53.9%）は現在の通勤・通学時間（同 35.3%）に比べて18.6ポイント高くなっており、許容時間が広がっている。

年代別にみると、すべての年代で、「1時間未満」の比率が最も高くなっている。また、すべての年代で、1時間以上の比率は合計で3割を超えており、現在の通勤・通学時間に比べて許容時間が広がっている。

居住地別にみると、すべての都県で「1時間未満」の比率が最も高くなっている。なかでも茨城県（44.0%）は現在の通勤・通学時間（同 20.8%）に比べて23.2ポイント高くなっており、他の都県と比べて許容時間が広がっている。一方、「30分未満」の比率も茨城県は他の都県と比べて突出している。

図表 6



《我孫子市への居住意向別》

我孫子市への居住意向（我孫子市は住宅購入の候補地となると思うか）別にみると、「思う（思う+やや思う）」と回答した人は、「思わない（あまり思わない+思わない）」と回答した人に比べて、1時間以上の比率が高く、比較的許容できる通勤・通学時間が長くなっている。

図表 7

